キャリア教育の充実に向けた教育課程や指導方法の工夫改善についての研究

～文脈学習の視点を取り入れた教育活動で基礎的・汎用的能力を育む～

香美市立大宮小学校　教諭　黒原　武志
高知県教育センター　指導主事　三好　文

本研究の目的は、小学校において、文脈学習を取り入れたキャリア教育を行うことが児童の基礎的・汎用的能力を高めるために効果があることを検討することであった。そのため、総合的な学習の時間、道徳、国語科の授業に文脈学習の四つの視点（「学習目的とのつながり」「過去の学習や教科間のつながり」「日常生活とのつながり」「将来の役割とのつながり」）を取り入れるとともに、児童につながりを意識させるための OPP シートを用いて学習活動を展開した。

その結果、文脈学習を取り入れたキャリア教育を行えば、児童の基礎的・汎用的能力は高められることが明らかになった。

〈キーワード〉　キャリア教育、小学校、文脈学習、基礎的・汎用的能力、OPP シート

1　研究目的

(1)　キャリア教育が求められる背景

近年の産業・経済の構造的な変化や雇用の多様化・流動化等を背景として、就職・進学を問わず子どもたちの進路をめぐる環境は大きく変化している。このような社会背景の中、日本の子どもたちは、自らの将来を展望しつつ学習の大切さや意義を実感しながら学習に積極的に取り組もうとする意識が国際的にみて低く（図１）、働くことへの不安を抱えたまま職業に就き、適応に難しさを感じている状況がある。また、身体的には成熟傾向が早まっているにもかかわらず、精神的・社会的自立が遅れる傾向があることや、勤労観・職業観の未熟さなど、発達上の課題も指摘されている。

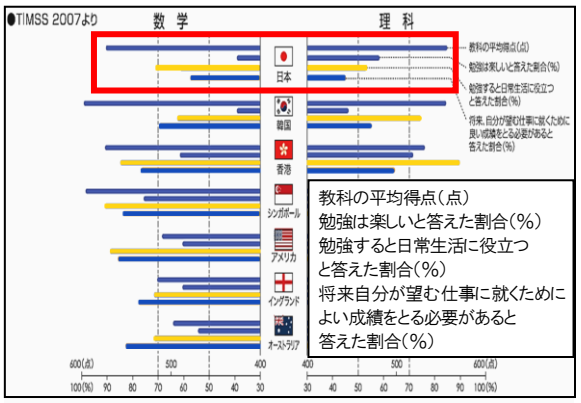

図１　TIMSS　2007 結果

高知県においても、平成 22 年度全国学力・学習状況調査の児童生徒質問紙の回答結果から、好きな授業や学ぶ意欲、基本的生活習慣、自己肯定感などに課題があることが分かった（図２）。

また、香美市においても、平成 24 年度全国学力・学習状況調査の児童生徒質問紙の回答結果から、小・中学校ともに「自分にはよいところがあると思う」「将来の夢や目標をもっている」の質問に対して、肯定感が低いこと【肯定群：香美市小学校 66%、78%（全国 77%、87%）、香美市中学校 62%、71%（全国 68%、73%）】が課題として挙げられている（図３）。

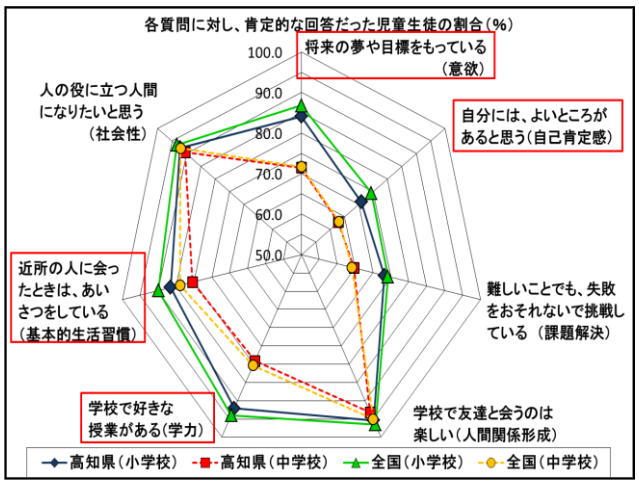

図２　平成 22 年度全国学力・学習状況調査児童生徒質問紙結果（高知県）

そのため、児童生徒一人一人がしっかりとした勤労観・職業観を形成し、様々な課題に柔軟かつたくましく対応する力を高めることが重要になっている。現在、県では平成 25 年度から、「キャリア教育推進地域事業」をスタートさせ、 県内３市（香美市・須崎市・宿毛市）を推進地域に指定し、域内の全ての小中学校において、キャリア教育の推進体制の構築と授業実践を進めている。

このように、社会的・職業的自立に向け、基盤となる能力や態度を育てることを通してキャリア発達を促すキャリア教育を小学校段階から計画的に行うことが求められている。

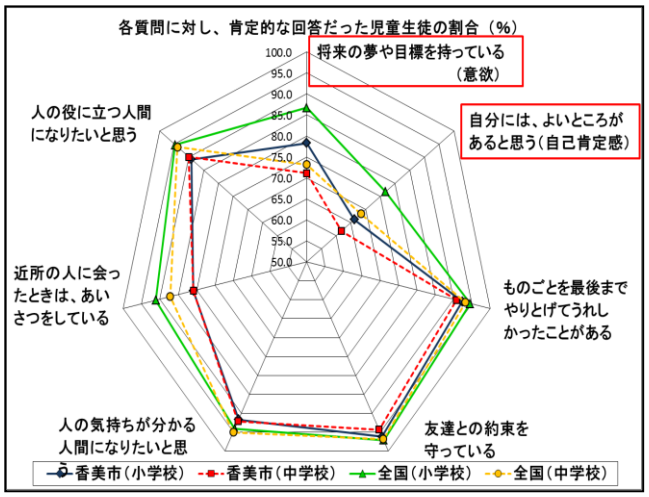

図３ 平成 24 年度全国学力・学習状況調査児童生徒質問紙結果（香美市）

(2) 小学校におけるキャリア教育の課題

小学校におけるキャリア教育については、次のような課題が挙げられている。

> ・キャリア教育の全体計画の作成は６割、年間指導計画の作成は５割程度の学校にとどまっている。児童の発達の段階に応じた系統的なキャリア教育を実践するためには、指導計画の作成を推進する必要がある。
> ・教科等の中で実践する時間が十分に確保されていない場合が多く、それぞれの活動が断片的にとどまってしまっている。
> 国立教育政策研究所『キャリア教育・進路指導に関する総合的実態調査第一次報告書』（H25.３月）

また、児美川（2006）は、小学校においてキャリア教育としての効果が期待できそうな教育活動（各教科の単元や学校行事、委員会活動、道徳や総合的な学習の時間の活動など）を「点」にたとえ、それらの「点」が結びつくことで「線」ができたり、「線」がより合わさることで「面」になったりというふうにはなっていないことを課題として挙げ、解決の手立てとして、学校の教育課程全体を点検し、関連する「点」や「線」を有機的に結びつけていくという観点から教育課程を編成し直していくことの必要性を述べている。

また、田村（2010）もキャリア教育を、道徳の時間を要として位置付け、教科・領域へと横断的に関連付けて行っていく必要があると考えることから、体験活動や教科等の学習を道徳の時間を中心としたパイプでつなぎ、現在の教育活動を見直し、関連性やつながりに注目して実践していくことの重要性を述べている。

現在、小学校におけるキャリア教育は進んできているが、大きな課題として「活動の断片化」が挙げられ、その課題を解決するための取組が求められる。

(3) 文脈学習を取り入れたキャリア教育

キャリア教育の課題である「活動の断片化」から脱却するための手法として、本研究に「文脈学習」を取り入れることにした。

文脈学習の必要性については、国立教育政策研究所による調査報告書で、従来の取組は、「全体として脈絡や関連性に乏しく、児童生徒の内面の変容や能力の向上に十分に結びついていない傾向があった。こうした課題を解決するためには、これまでの「点」の活動を「面」へ展開する、文脈学習（contextual learning)が求められる。学びに文脈を作るには、学校行事や体験的な活動、調査・分析、発表・討論の機会を用い、各教科・道徳・総合的な学習の時間・特別活動などにおいて、日常生活の中から課題を発見し問題解決的な学習を取り入れるなど、意図的なつながりをもたせることが望ましい。」と述べられている。そして、文脈学習の視点を次のように示している。

○学習目的とのつながり
　「何を」学ぶかだけではなく「なぜ」学ぶべきかを伝える。
○過去の学習や教科間のつながり
　新しい学びが既存の学習経験の上に構築されるよう、児童生徒の既存の知識や過去の学習と結びつける。学習間のつながりをつくる。
○日常生活とのつながり
　学習を現実社会での具体的な場面と関連づける。児童生徒が、日常的な問題を解決するために知識や能力を使用できる経験機会をつくる。
○将来の役割とのつながり
　児童生徒の将来の役割（働くこと、市民、家族の成員、生涯学習者など）につなぐ。

本研究では、この文脈学習を取り入れたキャリア教育を行うことで、児童が、「学校で学んだことが生活の中でも役に立つ」「今、学んでいることは、将来につながる」といった、学習の大切さや意義を実感することができるようになり、基礎的・汎用的能力の向上が図られるのではないかと考え、検証することにした。

２　研究仮説

文脈学習を取り入れたキャリア教育を行うことによって、児童の基礎的・汎用的能力は高められる。本研究では、この仮説を検証するために、以下のことを行う。

① 文脈学習の視点を取り入れたキャリア教育の検討
② 文脈学習の四つの視点を取り入れた OPP シートの開発
③ 仮説を検証するための検証授業

３　研究方法

(1) 文脈学習の視点を取り入れたキャリア教育の検討

ア　児童の実態把握

文脈学習の視点を取り入れたキャリア教育を構築するために、まず、Ａ小学校児童の実態把握を行った。Ａ小学校において、児童の課題を出しあう中で、「コミュニケーション能力」「自主性・主体性」の弱さが見えてきた。そこで、生活科、総合的な学習の時間を中心としたキャリア教育によって、「自分らしく自分で動ける子ども」の育成を目指して取り組んでいくことにした。

また、香美市の全公立小中学校の児童生徒（５年生以上）を対象として６月に行われた「キャリア形成に関するアンケート」結果から、Ａ小学校の児童は、学習に対する内発的動機が弱いことや課題対応能力が低いことも分かった。

イ　キャリア教育校内研修（全体計画、年間指導計画の作成・単元開発）

Ａ小学校の児童の実態を踏まえ、校内研修において、キャリア教育全体計画を作成した。児童の課題をもとに各ブロックの指導目標を共通理解するとともに、Ａ小学校のキャリア教育で育てたい能力として「かかわる力（人間関係形成・社会形成能力）」「みつめる力（自己理解・自己管理能力）」「うごく力（課題対応能力）」「みとおす力（キャリアプランニング能力）」「郷土愛」の五つの能力を設定した。

２回目の校内研修では、各教科、道徳、総合的な学習の時間、特別活動における従来の学習活動にキャリア教育の視点を取り入れ、全学年の年間指導計画（案）を作成した。その後、各ブロックで、文脈学習の視点を取り入れた単元開発を行った。

(2) 文脈学習の四つの視点を取り入れた OPP シート（One Page Portfolio 以下、「OPP シート」という）の開発

キャリア教育における学習活動では、問題解決的な学習を通して、児童が自らの課題に気付き、自己目標を設定し（決める）、課題を解決するための技能の獲得を目指して行動し（進める）、成果を振り返る（振り返る）ことが大切である。また、児童自身が学習の中で、文脈学習の四つの視点に気付くことも重要である。そこで、今回の研究では、児童が学習を進めながら自己理解を深めるとともに、学習の意義や目的、他教科等との「つながり」を意識できるような OPP シートを作成（図４）し、使用することにした。

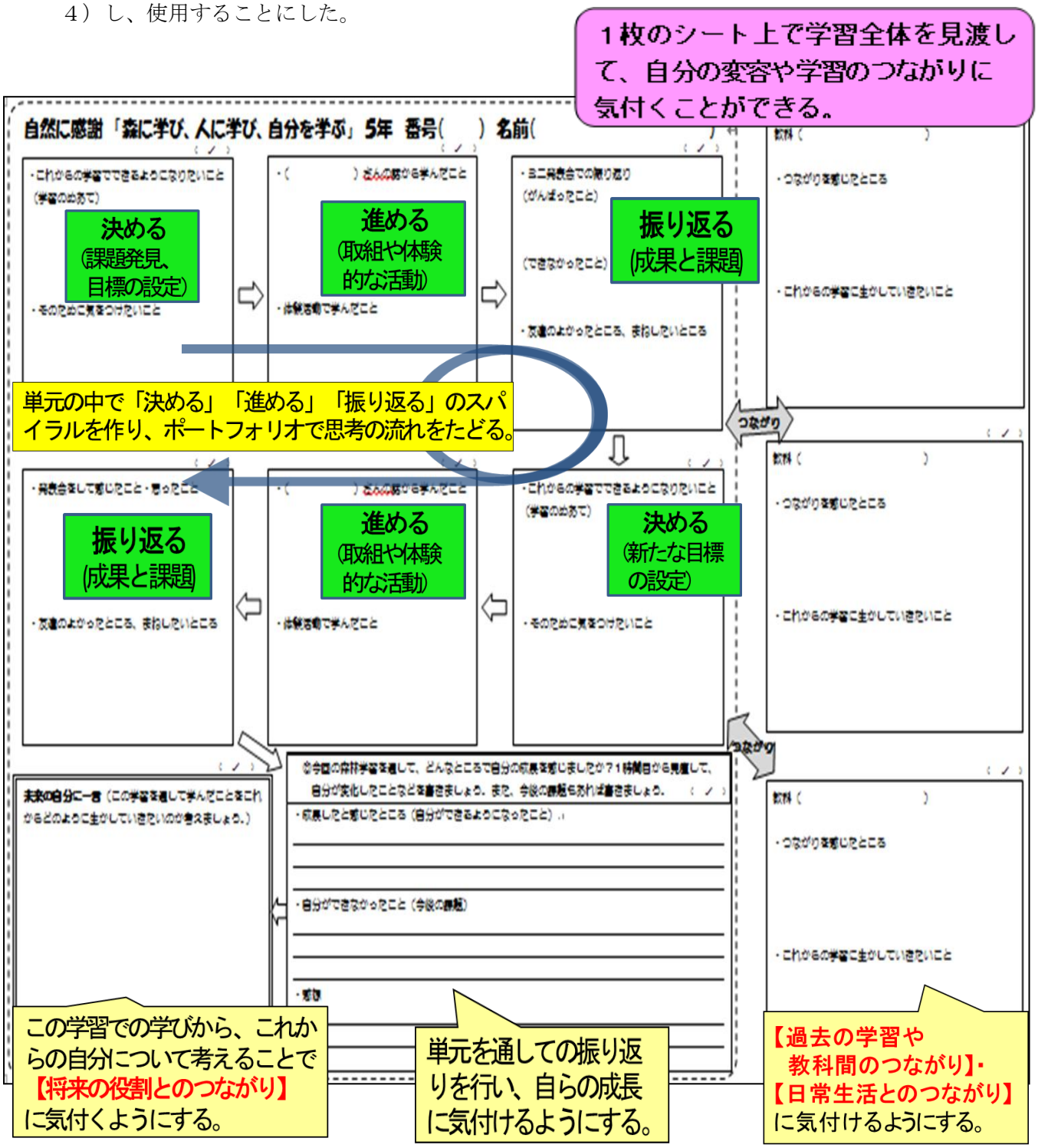

図４　OPP シートについての解説

(3) 仮説を検証するための検証授業

検証授業は、「総合的な学習の時間」「国語科」「道徳」をキャリア教育のねらいで関連付け構成した。また、１時間の授業の中で、児童が「過去の学習とのつながり」「日常生活とのつながり」等の文脈学習の四つの視点に気付くことができる学習活動を意図的に取り入れ実践を行った。

ア　検証授業の計画

【対象児童】香美市立Ａ小学校第５学年 34 名（男子 20 名　女子 14 名）

【授業時期】平成 25 年９月 24 日（火）～平成 25 年 11 月 20 日（水）

【授業時数】総合的な学習の時間：18 時間、国語科：１時間、道徳：１時間　計 20 時間実施（授業記録：資料１参照）

イ　検証方法

① 検証授業前後に「基礎的・汎用的能力に関するアンケート」をＡ小学校第５学年（処遇群:文脈学習を取り入れたキャリア教育を実施）及び第６学年（対照群：通常の教育活動を実施）で行い、アンケート結果を分析する。

② 処遇群に対し検証授業を実施し、ワークシート及び OPP シートにおける児童の記述内容を分析する。

③ 検証授業における児童の行動や発話の変容を分析する。

※①～③の方法により児童の変容を見取る。

４　結果と考察

(1) 結果

①「基礎的・汎用的能力に関するアンケート」結果

検証授業の事前調査と事後調査（表１）において、児童の基礎的・汎用的能力の平均値について t 検定を行い、その変容について検討した。なお、統計的分析には IBM SPSS Statistics 21.0 を用いた。以下にその詳細について記す。

表１　「基礎的・汎用的能力に関するアンケート」質問項目一覧表

要素	項目番号	項目	項目番号	項目
人間関係・社会形成能力	2-1	友だちの意見や友だちのよいところをみとめながら、協力している	2-2	自分を助けたりはげましたりしてくれる周りの人に感謝している
	2-3	自分の考えを積極的に話したり、話し合いに参加したりしている	2-4	人の役に立つ人間になりたいと思う
	2-5	人の話を、相手が伝えたいことは何かを考えながら、最後までしっかり聞いている		
自己理解・自己管理能力	3-1	場に応じて、ていねいな言葉をつかうことができる	3-2	自分には、よいところがあると思う
	3-3	学習を通して、自分の成長を感じることがある	3-4	ものごとを最後までやりとげてうれしかったことがある
課題対応能力	4-1	難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦している	4-2	先生に言われたことだけでなく、やりたいことや調べてみたいことを自分で考えて取り組んでいる
	4-3	うまくいかないことがあっても、別の方法を考え、あきらめずに解決しようとしている	4-4	学習のなかで、自分ができることやできていないことをふり返るようにしている
	4-5	調べて分かったことを分かりやすく人に伝えるために、まとめ方を工夫している		
キャリアプランニング能力	5-1	将来の夢や目標を持っている	5-2	自分の住んでいる地域には、尊敬する大人や目標にしたい人がいる
	5-3	自分はどんなことが得意であるか知っている	5-4	なぜ勉強をするのか考えて勉強している

検証授業の事前においては、基礎的・汎用的能力のいずれの要素においても、処遇群（５年生）と対照群（６年生）に有意な差は見られなかったが、事後では、いずれの要素においても処遇群の平均値が対照群の平均値よりも有意に高かった。

さらに、事前調査では、「２－１」以外の質問項目において有意な差が見られなかったが、事後調査では、人間関係形成・社会形成能力の「２－３」、自己理解・自己管理能力の「３－１」「３－３」「３－４」、課題対応能力の「４－２」「４－３」「４－４」「４－５」、キャリアプランニング能力の「５－４」の質問項目において、処遇群の平均値が対照群の平均値よりも有意に高かった（表２）。

表２　「基礎的・汎用的能力に関するアンケート」の平均値（標準偏差）及び t 検定結果

要素		5年生（処遇群） 事前 N=34	5年生（処遇群） 事後 N=33	6年生（対照群） 事前 N=36	6年生（対照群） 事後 N=34	有意差
人間関係形成・社会形成能力	平均値	3.43	3.60	3.32	3.32	**
	(標準偏差)	(0.33)	(0.39)	(0.26)	(0.38)	
自己理解・自己管理能力	平均値	3.35	3.60	3.31	3.32	**
	(標準偏差)	(0.53)	(0.39)	(0.54)	(0.44)	
課題対応能力	平均値	3.05	3.39	2.89	3.02	**
	(標準偏差)	(0.52)	(0.53)	(0.42)	(0.51)	
キャリアプランニング能力	平均値	3.45	3.66	3.41	3.41	*
	(標準偏差)	(0.41)	(0.41)	(0.43)	(0.40)	

項目番号		5年生（処遇群） 事前 N=34	5年生（処遇群） 事後 N=33	6年生（対照群） 事前 N=36	6年生（対照群） 事後 N=34	有意差
2-1	平均値	3.59	3.73	3.22	3.26	**
	(標準偏差)	(0.50)	(0.45)	(0.48)	(0.57)	
2-2	平均値	3.82	3.61	3.81	3.55	n.s.
	(標準偏差)	(0.39)	(0.50)	(0.47)	(0.56)	
2-3	平均値	2.94	3.42	2.61	2.76	**
	(標準偏差)	(0.74)	(0.61)	(0.73)	(0.55)	
2-4	平均値	3.71	3.81	3.75	3.68	n.s.
	(標準偏差)	(0.46)	(0.40)	(0.50)	(0.53)	
2-5	平均値	3.09	3.45	3.19	3.35	n.s.
	(標準偏差)	(0.57)	(0.62)	(0.52)	(0.60)	
3-1	平均値	3.29	3.63	3.28	3.24	*
	(標準偏差)	(0.76)	(0.56)	(0.66)	(0.61)	
3-2	平均値	3.26	3.39	3.11	3.15	n.s.
	(標準偏差)	(0.79)	(0.79)	(0.66)	(0.74)	
3-3	平均値	3.09	3.63	3.08	3.18	**
	(標準偏差)	(0.83)	(0.55)	(0.84)	(0.76)	
3-4	平均値	3.76	3.88	3.75	3.65	*
	(標準偏差)	(0.43)	(0.33)	(0.55)	(0.49)	
4-1	平均値	3.12	3.36	2.94	3.09	n.s.
	(標準偏差)	(0.59)	(0.70)	(0.53)	(0.62)	
4-2	平均値	3.00	3.27	2.89	2.91	*
	(標準偏差)	(0.85)	(0.67)	(0.67)	(0.71)	
4-3	平均値	3.06	3.33	2.89	3.00	*
	(標準偏差)	(0.74)	(0.54)	(0.67)	(0.65)	
4-4	平均値	3.12	3.48	2.92	3.09	*
	(標準偏差)	(0.69)	(0.67)	(0.65)	(0.68)	
4-5	平均値	2.97	3.48	2.83	3.03	**
	(標準偏差)	(0.87)	(0.71)	(0.61)	(0.63)	
5-1	平均値	3.68	3.73	3.50	3.47	n.s.
	(標準偏差)	(0.64)	(0.57)	(0.81)	(0.79)	
5-2	平均値	3.44	3.67	3.22	3.35	n.s.
	(標準偏差)	(0.79)	(0.69)	(0.76)	(0.73)	
5-3	平均値	3.35	3.70	3.22	3.41	n.s.
	(標準偏差)	(0.88)	(0.59)	(0.83)	(0.66)	
5-4	平均値	2.71	3.30	2.94	2.85	*
	(標準偏差)	(1.03)	(0.88)	(0.83)	(0.78)	

※　事前では、いずれの要素においても処遇群と対照群に有意差は見られなかった。
※　事前では、項目2-1のみ処遇群と対照群に有意差が見られた。

*p <.05, **p <.01 , n.s. not significant.

② ワークシート及び OPP シートへの記述

ワークシートの記述では、最初のゲストティーチャー（森林総合センター役員Mさん）の話を聞いた後の感想に、「昔はのこぎりの大きさが違うのが多くてびっくりした。」、「木で作った道具などを見て一番心に残ったのはすごくでっかいのこぎりだった。使ってみたいけどこわい。」などといった知識的なことや視覚的に印象に残ったことを記述する児童が約半数いた。一方、授業者がキャリア教育のねらいとしていたMさんの仕事に対する思いなどに関する記述は、わずか４名であった。そこで、２回目のゲストティーチャー（香北森林組合職員Ｔさん）を迎える前に、前回の授業でゲストティーチャーの仕事に対する思いに気付いていた児童を紹介し、他の児童に人と関わる際の視点を持たせた。それによって、２回目の授業では、Ｔさんの思いに気付き自分の生き方とも関わらせた記述内容になった児童が 20 名に増えた。

＜２回目のゲストティーチャーを招いての学習における感想＞（ワークシート抜粋）
・長い道のりだったけれどこの仕事にたどりついたので、すごくよかったと思う。いろんな困難を乗りこえていたのですごかった。
・いろいろ別の仕事とかをしてチャンスがやっと来て好きな仕事ができるのはすごいと思った。ぼくは山が大好きなのでボランティア活動で参加してみたい。
・Ｔさんの仕事につくまでの「道のり」と「努力」が分かった。また来てもらって、今の森林の問題について、どう考えているかもっと聞きたい。
・Ｔさんの体験した話から、「積み上げてきたものにチャンスがくる」ということが分かった。
・「人と人とのつながりを大事にしていればチャンスがめぐってくる」という言葉を覚えて大切にして、努力して森林の仕事にぼくもつきたいと思った。

また、OPP シートを見ていくと、当初、基礎的・汎用的能力に関する記述が見られた児童は「34 名中、16 名」だったが、最後の記述では「31 名中、26 名」になった。今回の学習で、自ら課題に向かって取り組むことや、ゲストティーチャーとの関わりを通して、自分の生き方とも照らし合わせながら学習を深めていったことがうかがえた。

＜学習を通して成長したと感じるところ＞（OPP シート抜粋）
・前よりも人と関わるということが好きになった。つながりを見つける力が身に付いた。
・たくさんの人が見えないところで支えてくれているんだと思った。
＜人間関係形成・社会形成能力＞
・少しできなかったこともあったけれど、できなかったことは気をつけて、何でもできるようにしていきたいと心から思ってしまった。
・自分から積極的にリーダーになって、自分から進んで行動できた。＜自己理解・自己管理能力＞
・ＭさんやＴさんにも協力してもらって森林に対しての思いや願いなども知ることができた。
できなかったことができるようにもなったし、次の課題もできた。　＜課題対応能力＞
・なぜ勉強をするのか、考えながら勉強することができるようになった。
・地域の森林に関わっている人たちの仕事への思いが分かった。＜キャリアプランニング能力＞

さらに、「つながり」への気付きを書く欄には、過去の学習や他教科、生活とのつながりに気付きながら基礎的・汎用的能力を高めていることがうかがえる記述が、学習を進めるごとに増えていった。

＜学習のつながりへの気付き＞（OPP シート抜粋）
・木の高さや直径を測るのと計算がつながっていることが分かった。算数と森林のことがつながっていることが分かったので、これからも算数の授業をまじめにやりたい。【他教科とのつながり】
・グループで協力して調べることが、社会科の学習とつながった。協力しあえる人になるために生かしていきたい。【学習目的とのつながり】
・４年生で習ったこと（メモの取り方）が、こういうところで生かされてうれしかった。
【過去の学習とのつながり】

OPP シートにおいて個人の変容に目を向けてみると、次の二人の児童は、最初は自分が得た知識のことや、主観のみの感想で終わっていたが、授業が進むにつれて、ゲストティーチャーとの関わりや、下級生や地域の人にまで目を向けた記述が見られるようになった。また、「未来の自分に一言」の記述からは、今回の学習の学びをこれからの学習につなげていきたいという思いにまで膨らんでいることがうかがえた。

〈OPP シートにおいて見られた個人の変容〉

	Ｔさんの話を聞いて（10/２）	最後の感想（11/20）	未来の自分に一言（11/20）
B 男	森林が身の回りにあるものだから大切にしなければならないということが分かった。 木は様々なものに使えるということが分かった。	総合的な学習の時間の授業の時間は短かったけどすごく貴重な時間だった。たくさんの人たちと関わることはすばらしく、人との関わりを大切にしなければならないと思った。大切にしていれば将来につながるということも分かった。	困ったときや一人でできないときは他の人と協力すれば一人でできないこともできるようになる。
C 子	たくさん教えてもらえてうれしかった。自分の決めためあてのことに役に立ったし、これからどうしていけばいいのか分かった。	私たちだけで４年生に発表できて４年生に森林のことを知ってもらえたから次の４年生にも伝えていってほしい。 プランターをまた作る機会があったら地域の人たちが元気になるように花を増やしたい。	「かがやき」でした授業を覚えていますか？たくさんの人から学んだことを今は生かしていますか？森林の大切さを忘れないようにしてね。

③ 授業における児童の様子

それぞれの活動において、主体的な児童の姿が見られた。以下、その代表的な児童の姿である。

活動場面	児童の言動
講師依頼の電話	今回の授業の外部講師であるゲストティーチャーに児童が自ら電話をかけ、講師を依頼する活動を設定した。代表者を決定し、全員が見守る中、電話をかけた。電話のやりとりの中で、言い忘れそうになった言葉を近くの児童が小声で教える姿も見られた。代表の児童は、学習の目的等をきちんと伝えることができ、依頼は無事に成功した。それ以降は、他の児童も自らファックスを送って依頼をしたり、質問や案内状なども送ったりすることができるようになった。
調べ学習	各自がテーマに沿って追究活動を行った。中には、自主学習などで保護者や親せきにインタビューをして主体的に調べてくる児童もいた。個人で集めてきた情報をグループで共有しまとめるといった活動を通して、友だちの意見やよいところを認め合いながら活動ができていた。
間伐材を使ったもの作り	最初は消極的な姿が見られたが、製作が始まると、自分たちでできることは協力しながら作業を進めることができた。特にシーソーを作るグループは、他校にある丸太のシーソーの写真を入手するなど積極的に活動する姿が見られた。
発表会	当初は、４年生に向けた発表を予定していたが、児童から「これまでにお世話になった方も招待したい。」という意見が出たため、MさんとＴさんを招待した。新聞形式で発表するグループや、家庭からタブレットを持参したり、パワーポイントを用いたりして発表するグループもあった。発表会終了後、４年生やゲストティーチャーから感想をもらい、「頑張ってやってきてよかった。」と達成感を感じている声が多く聞かれた。
単元を通しての振り返り	授業者が児童に「なぜ勉強が必要なのか？」と尋ねると、「自分の将来のため」とか「次に習うこととつながっているから」と返答があり、今回の学習を通して、児童が学習のつながりを意識するようになったことがうかがえた。

⑵ 考察

今回の検証授業の結果、アンケートやOPPシートなどへの記述、児童の言動などから、児童の基礎的・汎用的能力の向上を確認することができた。これらの変容が見られた要因について以下のように考察する。

ア　「つながり」の視覚化による学習意義の実感

今回の研究では、児童に文脈学習の四つの視点を意識させることを重視した。そこで、毎時間の授業の中で、これらの視点に気付くことができるような活動を意図的に取り入れた。また、児童の気付きを促しながら学習を進めるためのツールとしてOPPシートを作成し使用した。OPPシートには、「他教科や日常生活とのつながり」等の欄を設け、「つながり」の視覚化を図った。これらの手立てにより、児童の活動が「点」から「線」へとつながることで、学習の意義を実感するようになり、「自己理解・自己管理能力　３－３」「課題対応能力　４－４」「キャリアプランニング能力　５－４」に変容が見られたと考えられる。

イ　目的意識を明確にした問題解決的な学習

今回の学習の柱は、「森林について調べたことを４年生に伝えること」と、「間伐材を使ったもの作り」であった。自分たちで課題を設定し、グループで協力して行う活動が中心であったため、自分がしたいことを仲間に伝えたり、よりよいものにしていくためのアイデアを出したりすることが求められた。また、木や道具の扱いが難しく思うように作業が進まなかったときにどうするか考えたり、伝えたいことが４年生に伝わるように発表の内容や伝え方を工夫したりすることで、課題を解決していった。それぞれの学習活動終了後の児童の感想からは、やり遂げたことへの達成感が読み取れた。こうした目的意識を持った問題解決的な学習を通して、「人間関係形成・社会形成能力　２－３」「自己理解・自己管理能力　３－４」「課題対応能力　４－２、４－３、４－５」に変容が見られたと考えられる。

ウ　自分の生き方へつなげる本物との出会い

「森林総合センター」「森林組合」からゲストティーチャーを招き、森林に関する専門的な知識を具体物等を用いて教えていただいたことで、児童の興味・関心を高めることができた。また、キャリア教育の視点を持った授業であることを事前の打ち合わせで伝え、仕事のやりがいや目標を持つことの大切さ等について、体験談を交えて話していただいた。児童は、専門家としての仕事の技に憧れの気持ちを持つとともに、語る言葉（熱意）に気持ちを動かされ、自分の生き方を考えるきっかけとなったのではないだろうか。これらの「本物」との出会いによって自分の生き方を考えるようになり、「課題対応能力　４－３」の変容につながったのではないかと考えられる。

一方、今回の取組では大きな変容が見られなかった能力もある。それらについては、対応する活動や気付きを促す手立てが不十分であったことが要因として考えられる。当然、一単元での取組では全ての能力に大きな変容を求めることはできないため、単元において重点的に育成を図りたい力を焦点化し、足りないところについては、次の単元で向上を図っていくことが系統的な指導であると考える。

５　成果と課題

⑴ 成果

ア　文脈学習を取り入れたキャリア教育の有効性の確認

検証授業において、総合的な学習の時間、国語科、道徳の時間を文脈学習の四つの視点で意図的につなぐとともに、毎時間の授業において、児童が「つながり」に気付くことができるような学習活動を取り入れた。これらの手立てにより、児童が、学習間の「つながり」や学習することの意義を実感するようになり、アンケートやOPPシートなどへの記述内容、授業の様子のいずれ

においても児童の基礎的・汎用的能力の高まりを確認することができた。このように、文脈学習を取り入れたキャリア教育が非常に有効であるということが分かった。

イ　OPP シートの開発

OPP シートには、他教科や日常生活などの「つながり」を感じたときに記述する欄を設けた。このため、文脈学習の四つの視点をより明確にすることができ、学習を進めていくなかで、自ら「つながり」に気付いた児童もいた。このように、「つながり」を視覚化することにより、児童がより「つながり」を意識して学習活動に取り組むことができるようになった。その結果、児童は学習の目的や意義を実感することができるようになり、基礎的・汎用的能力に高まりが見られたと考えられる。

(2) 課題

ア　「つながり」の強化

当初の計画では、社会科や特別活動なども含めた授業構成であった。しかし、検証授業として実施できたのは、総合的な学習の時間、国語科、道徳のみであったため、教育活動全体として検討するまでには至らなかった。学校教育活動の中には、キャリア教育につなげることのできる内容が多様にある。それらをより効果的に関連させた取組にしていくことが必要である。

イ　系統的な取組

今回の検証授業では、一定の成果を上げることはできたが、６年間を見通した系統的な取組までには至らなかった。６年間の系統性を考えて年間計画を見直し、学校全体で取り組んでいくことで、児童の基礎的・汎用的能力をより確かに高めていくことが必要である。

(3) 今後の取組

ア　OPP シートの普及

今回作成した OPP シートは、児童に学習の「つながり」を意識させ、基礎的・汎用的能力を高めるために効果的なツールであることが分かった。全校で統一して使用し、中学校でも継続して使用できるものを開発すれば、さらなる効果が期待できるので、このツールを普及させていきたい。

イ　成果及び課題の共有

本研究の成果と課題をＡ小学校の教職員と共有し、キャリア教育の充実に向けた取組をさらに進めていく。そして、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく能力を持った児童の育成に、全校を挙げて取り組んでいきたい。

【主な参考・引用文献】

児美川孝一郎（2006）：日本における「キャリア教育」実践の展開　―小学校におけるキャリア教育をどうするか―，法政大学キャリアデザイン学会紀要，p61.

田村香世（2010）：小学校におけるキャリア教育の推進に向けての調査研究―キャリア発達《人間関係形成能力》と道徳の時間に視点を当てて―，p10.

文部科学省　国立教育政策研究所生徒指導・進路指導研究センター（2013）：キャリア発達にかかわる諸能力の育成に関する調査研究報告書―もう一歩先へ、キャリア教育を極める―，実業之日本社

国立教育政策研究所生徒指導・進路指導研究センター（2013）:「キャリア教育」資料集　―文部科学省・国立教育政策研究所―研究・報告書・手引編　平成 24 年度版

文部科学省（2011）：小学校キャリア教育の手引き〈改訂版〉，教育出版株式会社

資料１　授業記録

総合的な学習の時間【２時間目】

本時のねらい	○講師の話を聞いて、昔から続いてきた森林と人間との関係を知ることができる。 ○講師の話を聞いて、願いや思いを知ることができる。

主な学習活動	学習の様子　◎文脈を意識した活動　◆基礎的・汎用的能力に関する育ち
1　本時のめあてを確認し、学習の流れをつかむ。	◎大切なことやもっと聞いてみたいことなどについて効果的にメモを取ることができるようにするために、４年生で学習したメモの取り方を提示し、過去の学習とのつながりを意識させた。【過去の学習とのつながり】
2　講師の話を聞く。 ・森林の様子や森で暮らす生き物について ・木材を加工した生活用品について ・森林で暮らしてきた人たちの道具の変遷について	・ビデオ、実験、道具の説明など様々な手法で、人間と自然とのつながりを話していただき、児童も興味を持って話を聞いたり、メモを取ったりする姿が見られた。 ◎道具の説明では、桶や升などが紹介されると児童からは「それぼくの家にもある。」とか「おばあちゃんの家で見たことがある。」などといった反応も見られ、実生活の中に木を使った製品がたくさんあるということを意識させることができた。【日常生活とのつながり】また、児童のほとんどがMさんの見せてくれる道具にくぎ付けになっている中、A子のメモを取りながら話を聞く姿が印象的であった。
3　講師の思いや願いを聞く。 ・Mさんの子どもたちに伝えたいことを聞く。	◎「身近な自然での体験が将来おとずれる選択の際の基準になってほしい。そのために自然の中でたくさん遊んでほしい。」、「くらしの中に自然とのつながりを感じることで自然を大切にしたい、という思いも持てる。」というMさんの思いを、児童はうなずきながら真剣な表情で聞くことができていた。【将来の役割とのつながり】
4　質問や感想を述べる。 ・更に詳しく知りたいと思ったことや、疑問などを聞く。 ・今日の感想や感謝の意を伝える。 5　本時の学習を振り返る。 ・ポートフォリオに本時の学習のまとめをする。	◆「どうしてこの仕事についたのか？」（A子）や「どんな気持ちで仕事をしているのか？」といったキャリア教育につながる質問が出され、最後には「もっと話を聞いてみたい。」という児童の声が聞かれた。（かかわる力） ◆最後にお礼を述べる児童を選ぶ際に、日頃の学習であまり積極的ではないA子を選出した。前時から森林の学習に対して興味を持っていることが見られたことや、この日も真剣にたくさんメモを取ったり、進んで質問をしたりする姿が見られたからである。最初は急に当てられ緊張していたが、今日の学習で学んだことやお礼の言葉などをしっかりと言うことができた。言い終えた後のA子の顔には満足げな表情が見られた。（みつめる力）

児童の感想	・たくさん教えてもらえてうれしかった。自分の決めためあてのことに役に立ったし、これからどうしていけばいいのか分かった。（A子） ・Mさんの仕事をはじめようと思ったことや、自然の大切さがよく分かった。 ・森林のことが分かりやすかった。みんなが森を守ろうとしているのが心に残った。 ・木は人のちえをいっぱい生み出してくれたし、先人のちえもすごかった。
成果と課題	森林総合センター役員のMさんが持参してくれた日常生活の中で見られる木を加工した道具や、植物や動物に関する話などのおかげで、児童も関心・意欲を持って、昔から続いてきた森林と人間との関係（先人の知恵）について学ぶことができた。また、キャリア教育の視点で振り返ると、児童は意欲的に、Mさんの仕事に対する思いや願いなどを聞くことができ、「かかわる力」の高まりを感じることができた。しかし、授業後の感想にMさんの思いに関わる記述はほとんどなかった。授業者の支援として、大切なことは板書で視覚化したり、ポートフォリオを書く際の視点を示したりする必要があった。

資料2　「文脈学習の視点を取り入れたOPPシート」

自然に感謝「森に学び、人に学び、自分を学ぶ」5年　番号(　　)　名前(　　)

(9/24)
・これからの学習でできるようになりたいこと
(学習のめあて)
自然の取り組みに自分から参加できるようになりたい。
・そのために気をつけたいこと
。ごみなどを見つけたら、自ら、拾う。
。自然を守る人たちの気持ちになって取り組む。

(/)
・(　M　)さんの話から学んだこと
・昔の人はどのようにして木を使ってくらしていたか
・体験活動で学んだこと
今ではチェーンソーとかがあって便利だけど昔のない時代の人はのこぎりで切っていて私は丸太を切っていてとても大変だった。

(10/9)
・ミニ発表会の振り返り
(がんばったこと)
自分で分かりやすく工夫してメモを取ることができた。
(できなかったこと)
自分で最初に決めた目標を意識しながら活動できなかった。
・友達のよかったところ、まねしたいところ
メモに小さい字で分かりやすくていねいな字でびっしり書いていた。

(/)
教科(国語)
・つながりを感じたところ
四年生で習ったメモの取り方がやくにたった。
・これからの学習に生かしていきたいこと
これからの社会見学やインタビューするときに使って生かしていきたい。

つながり

(/)
教科(国語(森林のおくりもの))
・つながりを感じたところ
自然はご先祖様がくれた大切なもの
・これからの学習に生かしていきたいこと
これからの社会や、道とくなどの勉強に生かす。

つながり

(10/17)
・これからの学習でできるようになりたいこと
(学習のめあて)
・人との交流や森林に学ぶという目標や目的をわすれず行動する。
・そのために気をつけたいこと
・メモなどにあらかじめ目標や目的を書いておく。
・じゅ業の後に自分でふり返りをして、これからどうするべきか、これをもっとこうしたらいいとふり返る。

(/)
・(　K　)さんの話から学んだこと
。クギを逆からやった方がいい。
。ズレているからやり直した方がいい。などのアドバイスをもらった。
・体験活動で学んだこと
友達とかがアドバイスや、おさえてくれたりして、協力は大切だとあらためて学んだ。だから私も友達の役にたちたい心。

(11/19)
・発表会をして感じたこと・思ったこと
。四年生がきちんと話を聞いてくれてクイズでもバンバン答えてくれてうれしかったです。
。みんなと協力できたのがよかったです。
・友達のよかったところ、まねしたいところ
○○君が紙しばいで自分の役になりきっていたのがよかったです。

(/)
教科(社会)
・つながりを感じたところ
森林のおくりものでは紙とかは社会生活にかかせない
・これからの学習に生かしていきたいこと
紙を大切にしたい。

◎今回の森林学習を通して、どんなところで自分の成長を感じましたか？1時間目から見直して、自分が変化したことなどを書きましょう。また、今後の課題もあれば書きましょう。(11/20)

・成長したと感じたところ（自分ができるようになったこと）
。自分から調べれるようになった。
・自分でみんなをまとめたりすることができるようになった。

・自分ができなかったこと（今後の課題）
。積極的に行動ができなかった。

・感想
今回の発表で自分のいいたいことが四年生に伝わったから今度は次の四年生に伝えてほしいと思った。

(11/20)
未来の自分に一言（この学習を通して学んだことをこれからどのように生かしていきたいのか考えましょう。）
これから、今回習った　M　さんや　T　さんの思をわすれずに、森林とふれ合ったりしていってください。